



▲先月でお別れした先生を囲んで

現在の総学生数は**127人**。うち**20%が日本人**です。他は韓国人、コロンビア人、ブラジル人、メキシコ人、台湾人、スイス人、スペイン人、ドイツ人の学生さんがいらっしゃいます。

## ◆今月実施しているクラス・ワークショップ

クラスについては別紙にてご確認ください。ワークショップとは、放課後実施している無料の勉強会のことですが、今月は月曜：ミュージッククラブ、火曜：韓国人学生さん限定の発音矯正ワークショップ、水曜：文法ワークショップ、木曜：日本人学生さん限定発音矯正ワークショップを実施しています。発音矯正ワークショップに参加した鈴木さんの声「アルビンという先生が今月担当していて、今日は7人の日本人が参加しました。今日はLとRの違い、シーとスィーの違い、Thの音について練習しました。他にリスニングの練習もしましたが、先生が文章を読み上げて、それを耳だけで聴き取り、同じ文章を私達も言うという訓練です。発音をネイティブに近づけるためには、発声と同じくらいリスニングも重要なんだと先生が教えてくれました。」

## ◆中上級レベルのTOEICクラスの授業例

練習問題が中心ですが、担当の先生の素晴らしいところは、質問をする度にとっても分かりやすく答えてくれる点。アジア系の先生ですが、発音もはっきりしていて聞きやすいと評判。リスニングの時のポイントも学びますが、例えばネイティブが話しているとき、単語を繋げて発音することに慣れなければならないということや、リーディングでは、全文読む時間を短縮するためのテクニックや、速度を遅くするためやっついはいけない読み方についても学ぶ事ができます。他のクラスではテキストやCDを使いますが、このクラスではプリントと先生の声だけです。大抵テストの音声は聞きやすいですが、先生の自然な音量とスピードで話すことにより、TOEICだけでなく日常会話にも役立つよう工夫しているからなのです。

## ◆英語オンリーの環境を保つためにしていること

学校内とその周辺2ブロックが当校の英語オンリーゾーンであることは知られていますが、それを保つためにはこんなことをしています。

1. 休み時間毎にラウンジ、教室、コンピューターラウンジを全て見回る。休み時間にドアが閉まっている教室があった場合は開けっ放しにする。
2. アクティビティの間も英語オンリー。もし母国語を話している学生さんがいれば、翌日同伴した先生からイエローカードが渡される。
3. 授業中に分からない単語が出てきたら、なるべく辞書を引かず先に先生に英語で意味を聞くよう仕向けている。
4. 時々メールで先生に宿題等を提出してもらうので、英語のメールアドレスを取得してもらうよう勧めている。

英語オンリーゾーン以外で学生さんに会った際でも、私はなるべく英語で話しかけています。(時々そうして欲しいという学生さんもいるので)

### ★今月渡されたイエローカード、レッドカード、グリーンカードの数★

イエロー(1回目の違反):6人 レッドカード(2回目の違反):2人 グリーンカード:1人 (イングリッシュ・オンリー・ゾーン以外でも積極的に英語を使っていた人に渡されるカード。3枚集めるとクーポンに代わります)

## ◆聖子のシドニー通信

### シドニーのアパート事情

留学フェアに出ている時や、新入生の皆さんによく聞かれる質問が、「シドニーってアパート簡単に見つかるんでしょうか？」というものです。最初はホームステイでも、1ヶ月後、2ヵ月後に止め、自分でアパートを探す人がほとんどです。現地の日本人がどのようにアパート、シェアメイトを探しているかについてご紹介します。

日本人が使うHPでは、JAMS(<http://www.jams.tv/>)や日本語新聞「チアーズ」のサイト([www.cheers.com.au](http://www.cheers.com.au))。ほとんど日本語で物件情報が書いてあって分かりやすいですが、シェアメイトは日本人になることが多いです。ちょっとチャレンジして、英語を使ってローカルなシェアメイトを探したいという人には、[www.domain.com.au](http://www.domain.com.au) (ドメイン)、[www.gumtree.com.au](http://www.gumtree.com.au) (ガムツリー)が使えます。他、シドニー・モーニング・ヘラルドという新聞の土曜日版にもたくさんの物件情報が掲載されています。

ここ数年高騰し続ける一方のシドニーの家賃ですが、例えばシティでアパートをシェアをした場合、家賃は大体100ドルから150ドル(1週間あたり)になります。最近では日本人、韓国人学生さんが好んでシティに住みます。便利だからというのと、交通費が浮くから、というのが理由だそうです。友達と出歩く機会が増え、結局交際費がかさむケースもあります。

家賃を安くしたい人の中には相部屋をしている人も少なくありません。そういった部屋では二段ベッドが置かれ、バックパッカーみたいな部屋になることもあります。6人で相部屋というすさまじい例もあります。またリビングシェアというのも一般的で、その名の通りリビングで寝泊りすることですが、他のシェアメイトが夜気を遣ってしまうことがあります。もっとすごいのはベランダでテントを張って生活する人もいるらしいです。日本に帰った後にネタになるかも、なんていうのん気な動機の人もあるようですが、そこまでいくと怖いものです。また日当たりがいい物件と聞いて内見したら、サンルームを少し改造しただけの部屋だったり・・・。

他人同士、しかも文化の違う人同士が一つ屋根の下に住むこともある訳ですから、当然オーナーとの間の揉め事や、部屋の使い方に関する意見の違いなども起こります。ただ日本では味わえないでしょうから、これも経験と、割り切って考えるのがいいと思います。